

3 DAC 法は、脳血管疾患において早期に軸索情報の変化をとらえることが可能であり、予後の早期診断に有用であると考えられた。

9) ミトコンドリア糖尿病の頭部 CT 所見

- 登木口 進 (小千谷総合病院 神経内科)
- 永井 雅昭 (同 内科)
- 藤田 信也・永井 博子 (長岡赤十字病院 神経内科)
- 伊藤 寿介 (新潟大学 歯科放射線科)
- 岡本浩一郎 (同 放射線科)

ミトコンドリア脳筋症の一つである MELAS と同一のミトコンドリア遺伝子 3243 の点変異を有するが、脳卒中や筋症状を伴わず臨床、糖尿病が前景にでる症例は、近年ミトコンドリア糖尿病 (mtDM) として知られるようになった。mtDM の臨床的特徴として感音性難聴を伴いやすく、DM は若年発症で進行性である。我々は難聴を伴う mtDM の 4 家系 5 症例を経験し CT 所見を検討した。共通する所見は左右対称の大脳基底核石灰化と脳萎縮であり、石灰化は視床や小脳歯状核に及ぶ例もあった。1 例で脳萎縮と石灰化の進行が認められた。

II. 特別講演

「fMRI の臨床応用」

新潟大学脳研究所脳機能解析学
教授 中田 力 先生

第42回新潟画像医学研究会

日時 平成11年10月30日 (土)
14:00~18:00
会場 万代シルバーホテル

I. 一般演題

1) Epidural metastasis で発見された神経芽細胞腫の画像所見

- 鈴木 昌志・岡本浩一郎 (新潟大学 放射線科)
- 酒井 邦夫 (同 放射線科)
- 関東 和成・田中 篤 (同 小児科)
- 内山 聖 (新潟大学歯学部 歯科放射線科)
- 伊藤 寿介 (同 歯科放射線科)

進行神経芽細胞腫は時として頭蓋骨へ転移をきたす。epidural metastasis と呼ばれる頭蓋骨から硬膜外腔への進展の頭蓋単純写真や CT 所見についての報告は認めれるが、MRI 所見についての報告はみられない。

症例は2歳1ヶ月の女児で肺炎で入院中に頭囲拡大に気づかれた。頭蓋単純写真では骨縫合の解離および骨の肥厚と放射状の骨膜反応が見られた。CT では上記の所見に加えて硬膜を越えて進展する腫瘍を認めた。MRI の T1WI では灰白質と比して等信号、T2WI では軽度高信号を示し、造影により均一に染まった。頭蓋骨内や骨膜反応部の腫瘍、硬膜、頭蓋底や副鼻腔に及ぶ腫瘍の進展の描出は CT より優れていた。生検により神経芽細胞腫と診断され、胸部 CT で後縦隔に原発巣と考えられる腫瘍を認めた。

2) Anterior transpontine vein を drainage route とする脳幹部髄質静脈奇形の 1 例

- 石川 和宏・岡本浩一郎 (新潟大学 放射線科)
- 酒井 邦夫 (同 放射線科)
- 伊藤 寿介 (新潟大学歯学部 歯科放射線科)
- 登木口 進 (小千谷総合病院 神経内科)

症例は48歳女性。神経線維腫症 1 型の脳病変検索目的に CT を施行、脳幹部に血管奇形を指摘された。画像上、橋より中脳にかけて多数の拡張した髄質静脈を認め、主として anterior transpontine vein を介し、高度に蛇行を繰り返した後、上錐体静脈洞に流入してい